二津野ダム下流域の物理環境の変化と生物の応答を調べました

R４.10.1

－紀南河川国道事務所－

二津野ダム下流の河川環境の特性を把握するため、河原の石の分布計測とそこに生息する水生生物調査を行いました。河川環境に関心を持っていただくため、近畿大学附属新宮高等学校・中学校スーパーサイエンス部の生徒およびダムを管理する電源開発（株）も参加し調査を行いました。

概　要

○日　　時：令和４年１０月１日（土）10時00分～12時00分
○調査場所：二津野ダム下流（和歌山県田辺市本宮町切畑地先）
○主　　催：紀南河川国道事務所
○参加団体：近畿大学附属新宮高等学校・中学校
　　スーパーサイエンス部 生徒6名、教員1名
　　電源開発株式会社　4名
○講　　師：水生生物調査アドバイザー　瀧野秀二氏
　　京都大学　竹門康弘氏
○実施内容：線格子法による河床材料の計測・水生生物の採取

調査状況

開会

定量採集

生物の分類

河床材料の計測

定性採集

解説（竹門先生）

講師の解説

・確認された底生動物をみると、きれいな水に生息する指標種が多く確認されたが、コカゲロウ科、ユスリカ科、ガガンボ科などが採集できなかった。また、カワゲラ科は上流～渓流で確認される種が少なく、中下流域の生息種が見られた。
・このような状況は、ダム下流という今回の調査地点の特性をよく表しており、大きな石の表面に生息する底生動物が多く確認される一方で、細かい底質や落ち葉の隙間に生息する底生動物は確認されない結果であった。
・今回のような取り組みは、若い世代が地元の自然の実態を知り、興味を持つことによって、環境保全や地域社会のための活動に取り組むようになる可能性を高めるものである。未来にむけて種を撒くという点で、非常に意義深い。

参加者の感想

・相野谷川に比べて石をひっくり返しても確認できる生物が少ないように感じた。石が埋まっていることがよくわかった。

・ヒラタカゲロウ類やカワゲラ類などはダムが近いためいないと思っていたが、確認できたので意外な結果だと思った。

【問い合わせ先】　国土交通省　近畿地方整備局　紀南河川国道事務所　調査課
〒646-0003　和歌山県田辺市中万呂１４２　　TEL 0739-22-4813